

がっ にちにちようび こくりつりょうようじょおきなわあいらくえん ちーむおきなわしゅさい  
7月17日日曜日、国立療養所沖縄愛楽園でチーム沖縄主催の

びーちくりんあつぷ さんか ごご くりんさぎょう さんか ひと えんない  
ビーチクリーンアップに参加しました。午後、グリーン作業に参加する人たちは園内にある

こうりゅうかいかん しゅうごう こうりゅうかいかん はんせんびょう ただ ちしき  
交流会館に集合しました。交流会館は、ハンセン病の正しい知識を

いっばん ひろ つた あいらくえんないがい ひと こうりゅう ばしょ さくねん  
一般のみなさんに広く伝え、愛楽園内外の人が交流できる場所として昨年

なつ くに おこな かくりせいさく げんざい つづ はんせんびょうかいふくしゃ  
夏に国が行った隔離政策によって現在まで続いているハンセン病回復者らの

くる きちょう てんじぶつ れきしりょうかん とも おーぷん  
苦しみをたくさんの貴重な展示物で再現した歴史資料館と共にオープンしました。

びーち せいそう こうりゅうかいかん こうどう はんせんびょうかいふくしゃ たいらじんゆう  
ビーチを清掃するまえに、交流会館の講堂でハンセン病回復者の平良仁雄

こうわ き じんゆう あいらくえん こくりつ かんじゃ  
さんの講話を聞きました。仁雄さんは、愛楽園はもともと国立ではなく患者たちが

あんじゅう ち もと じぶん て はんせんびょうかんじゃ ねっしん きりすと  
安住の地を求め自分たちの手でつくったこと、ハンセン病患者で熱心なキリスト

きょうと あおきけいさい しょうがい はなし けいさい かんじゃ はくがい う  
教徒でもある青木恵哉の生涯の話をしました。恵哉ら患者たちは迫害を受

じぶん あんじゅう ち さが もと かくち てんてん みず な じゃるまどう  
けながら自分たちの安住の地を探し求めて各地を転々とし、水さえ無いジャルマ島と

むじんとう く げんざい おきなわあいらくえんない のうこつどうしゅうへん ち  
いう無人島で暮らし、そして現在の沖縄愛楽園内の納骨堂周辺の地にたど

つ けいさい かんじゃ とち か じぶん て つく あいらくえん  
り着きました。恵哉ら患者たちで土地を買い自分たちの手で作ってきた愛楽園でした

よぼうほうせいいてい きょうせいにゆうしょ ばしょ じんゆう けい  
が、らい予防法制定で強制入所の場所になってしまいました。仁雄さんは、恵

さい ひじょう ねっしん きりすときょう しんこう きりすときょう こきゅう  
哉が非常に熱心にキリスト教を信仰しており、キリスト教を呼吸していたからこそ

しごと けいさい さべつ はくがい くる つづ しょうがい  
の仕事ができたとおっしゃいました。患 哉は差別と迫害に苦しみ続けた生涯をおくた

な しあわ ことば  
はずですが、亡くなると「幸せであった」とおっしゃったそうです。この言葉はしななければならない

しごと じぶん ささ い ことば おも ご  
仕事に自分のすべてを捧げまとうたからこそ言えた言葉かもしれないと思いました。その後、

くりんかつどう のうこつどう ほう  
グリーン活動のため納骨堂の方へ

ばしょ いたう のうこつどう こえ  
場所を移動し、納骨堂、そして声

こども ひ けんか もく  
なき子供たちの碑に献花し黙とうしま

のうこつどう あいらくえん な  
した。納骨堂は、愛楽園で亡くな

しごと こきょう かえ  
り死後も故郷に帰ることができない

かた ねむ たいせつ ばしょ こえ  
方が眠る大切な場所で、声な

こども ひ にんしん かんじゃ きょうせい だたい う  
き子供たちの碑は妊娠した患者が強制的に墮胎させられたことによって生まれること

こども たましい しず いれいひ  
のできなかった子供たちの魂を鎮める慰霊碑です。



くりんさぎょう ひ  
グリーン作業がはじまったのはだいぶ日

かたむ ひざ  
が傾いたころでしたが日射しがまだま

きょうれつ にし ちよくしゃにっこう  
だ強烈で西からの直射日光



あ びーち ひょうちやくごみ かたづ くりんさぎょう あせ  
を浴びながらビーチの漂着ゴミをみんなで片付けました。グリーン作業で汗をながしたあ

のうこつどう ひろば しゅさいしゃ かた じゅんび かた  
と、納骨堂のとなりの広場で主催者の方が準備して下さったごちそうをみんなで語り

あ しよじ ひがし そら にじ はんせんびょうかいふくしゃ  
合いながら食事をしていると東の空にきれいな虹がでていました。ハンセン病回復者

かた ちよくせつしほんとう れきし き たいせつ ばしよ  
の方から直接知っておかなければならない本当の歴史を聞き、大切な場所をみんな

よ いべんと ちーむおきなわ あいらくえん  
できれいにするというとても良いイベントでした。チーム沖縄のみなさんと愛楽園のみなさん、ありがとうございました。

がっ にち にち かかん はままつし あくとしていはままつ じるけんしゅうおよ  
6月27日～29日の3日間にわたり浜松市のアクトシティ浜松にてJIL研修及び

そうかい ひら おきなわ れんじつ あつ ひび つづ  
総会が開かれました。このころの沖縄は連日むし暑い日々が続いておりましたが、

はままつ たいへんすず かかん す ちゃんす めいぶつ  
浜松では大変涼しい3日間を過ごせました。そして、チャンスさえあれば名物のうなぎ

た かんが  
を食べてみたいと考えていました。

けんしゅうしょにち ぶろぐらむ こくない しょうがいしゃさく じょうせいほうこく ねんど  
研修初日のプログラムは、国内の障害者施策の情勢報告と2016年度の

じるそうかい  
JIL総会でした。

じょうせいほうこく でいーぴーあいにほんかいぎ おのうえ ねんもんだい  
情勢報告ではまず、D P I 日本会議の尾上さんによる「2019年問題」

みす こくない しょうがいしゃしやく ほうこく ねん さべつ  
を見据えた国内の障害者施策についての報告でした。2019年は、差別

かいしょうほう そうごうしえんほう みなお しょうがいしゃけんりじょうやく こくれん  
解消法、総合支援法の見直し、また障害者権利条約について国連に

ていしゆつ さいしょ せいふほうこくしょ しんさ よくねん ねん とうきょう  
提出された最初の政府報告書の審査、そして翌年2020年の東京

おりんぴっく ぱらりんぴっく む ばりあふりー かん もんだい おな じき さまざま  
オリンピック・パラリンピックに向けてのバリアフリーに関する問題など、同じ時期に様々な

じゅうようかだい しごと ひろ しゃ み  
重要課題がかさなることから、仕事をするうえで広い視野でものごとを見なければならぬと

べんきょう つぎ おな でいーぴーあいにほんかいぎ さとう さべつ  
いうことを勉強しました。次に同じく D P I 日本会議の佐藤さんによる差別

かいしょうほう かん ほうこく ぜんこく おこな さべつかいしょうほう いわ  
解消法に関する報告がありました。全国で行われた差別解消法のお祝い

ぱれーど しゃしん み ぜんこくてき よ あびーる  
パレードの写真を見せながら全国的にとても良いアピールになったとおっしゃいました。そし

ねんご みなお む ごうりてきはいりよ みんかん どりよくぎむ  
て、3年後の見直しに向けて合理的配慮が民間では努力義務にとどまっていることなど

かだい さべつ まどぐち そうだん じれい ふ みなお  
の課題があるので、もし差別をうけたらどどん窓口に相談して事例を増やし、見直しに

はなし ひ はなし き われわれ しごと  
つなげようというお話でした。この日のお話を聞いて、我々のひとつひとつの仕事が、

こくない ほうりつ よ こくれん けんりじょうやく しんさ かが  
国内の法律をどんどん良くしていくことや、国連の権利条約の審査にも関わっていて、

かいじょう あつ ぜんこく しーあいえる ひと おな かくちほう  
この会場に集まっている全国の C I L の人たちが同じように各地方でがんばって

しごと もんだい おな ほうこう む すす かん  
仕事をし、いろんな問題をかかえながらも同じ方向へ向いて進んでいるということを感じ

よ  
ることができて良かったです。

かめ ごぜんちゆう ぶろぐらむ  
2日目、午前中のプログラムは

しーあいえるひゅーまんねつとわーくくまもと  
C I L ヒューマンネットワーク熊本

ひのくま くまもとだいしんさい  
の日隈さんによる熊本大震災

きゅうえんかつどう ほうこく  
救援活動の報告でした。お



はなし まえ がつ にち ほんしんご くまもとがくえんだいがく ひなん ようす  
話の前に4月16日の本震後の熊本学園大学における避難の様子をまとめた

びでお み しーあいえる りようしゃ いがい ひさい しょうがい  
ビデオを見せていただきました。C I Lの利用者さん以外にも被災した障害のある

かたがた ひなんじょ う い じしん ひさいしゃ み じんざいぶそく ふみん  
方々を避難所に受け入れ、自身も被災者の身でありながら人材不足のなか不眠

ふきゅう かいじょ へるぱー ようす ほんとう むね いた ゆうじ さい じぶん  
不休で介助にあたるヘルパーさんの様子は本当に胸が痛み、有事の際に自分もあ

はたら つづ えいぞう み じもんじとう じゅんび  
のように働き続けられるか映像を見ながら自問自答し、こころの準備だけでもしておか

おも ひさいせいかつ どうじしゃみずか けん しょくいん へるぱー  
なければと思いました。また、被災生活のなか、当事者自ら県の職員にヘルパー

ぶそく げんじょう うった かいぜん もと すがた いんしょう のこ  
不足の現状を訴え改善を求める姿もとても印象に残りました。

つぎ くまもとがくえんだいがく よしむらせんせい かくしーあいえる ひと ひなん  
次の熊本学園大学の吉村先生は、まずは各C I Lの人たちの避難につ

かくせんたー どうじしゃだんたい けいかく た じゅんび  
いて各センターで当事者団体ならではの計画をしっかり立てて準備をしましょうというお

はなし  
話をしました。

ごご ぶろぐらむ ひ にほん かいがい しーあいえる  
午後のプログラムは、この日のためにはるばる日本にいらつした海外のC I Lのみな

はなし き あめりか はっぴよう き ぎょうせい しーあいえる  
んのお話を聞きました。まず、アメリカのみなさんの発表を聞いて、行政とC I L

かか ふか すたっふ べんごし にほん  
の関わりが深いことやスタッフのなかに弁護士がいることがわかりました。いろんなことが日本よ

すす べんきよう おも つぎ こすたりか しーあいえる  
りも進んでいて勉強すべきところがたくさんあると思いました。次にコスタリカのC I L

もるふお じむきよくちようえんでい かつどうほうこく き しょうがいしゃ じりつ  
モルフォから事務局 長 ウエンティさんの活動報告を聞きました。障害者の自立

そくしん ほうりつ とお とらい おこな ぶじさいご ある とお こくない  
促進のための法律を通すためにTRYを行い、無事最後まで歩き通し国内の

ちゆうもく あつ はっぴよう はなし  
注目を集めたという発表はとてもいいお話でした。

かめ さいご こうりゆうかい はままつ めいぶつ あつ べんとう かいがい  
2日目の最後は交流会で浜松の名物を集めたお弁当をいただきながら海外か

げすと じゅんび きかく たの しずおかけん  
らのゲストをおもてなしするために準備されたいろんな企画で楽しみました。静岡県ゆる

きゃらだいしゅうごう こーなー でんとう はままつ たいへんたの す  
キャラ大集合のコーナーや伝統の浜松まつりをみせてもらい、大変楽しく過ごしまし  
た。

さいしゅうびごぜん ぶろぐらむ しーあいえる じっさい しごと かつやく せいしん  
最終日午前のプログラムは、C I Lで実際に仕事をして活躍している精神

とうじしゃんめい かた はなし き はなし まえ いちにち せいかつ  
当事者三名の方のお話を聞きました。お話の前にそれぞれの一日の生活を

みじか びでお み しごと せいかつ すたいる さんしゃさんよう  
まとめた短いビデオを見ました。仕事や生活のスタイルは三者三様で、それぞれ

しよくば じたく さまざま くふう しよくば とく  
職場でも自宅でも様々な工夫をしていることがよくわかりました。また、職場では特に、まわり

ひと しょうがい たい りかい たいせつ おも げんざい せいかつ  
の人たちの障害に対する理解がとても大切だと思いました。現在のように生活

ができるようになるまでにはきっといろいろな苦勞があつたろうと想像しながらビデオを見ました。

精神当事者の方の職場での合理的配慮のことも考えさせられました。そして

三名の方のお話をうかがって、それぞれの方が行っているC I Lでの活動が

すばらしいと思いました。障害当事者のことを第一に考えて、必要だと思えばどこ

でも出かけていく活動力や、相談やピア・カウンセリングの仕事など、自身の障害と

しっかりと向き合いながら当事者の立場から社会を変えるための仕事を坦々と行って

すがたは、見ていて元気ができました。

午後は、他の沖縄のC I Lのみなさんといっしょに浜松にあるC I Lこねくとの

事務所を見学に行きました。他県のC I L事務所を見せてもらう機会はなかなかありま

せんので大変貴重な時間でした。

今回のJIL研修も全国のみなさんに会えて良かったです。うなぎは高級すぎて

残念ながら今回はあきらめてしまいましたが、帰りに空港でうなぎパイをおみやげに買って

帰りました。